

子宮頸がん定期予防接種を受けましょう

子宮頸がんは子宮の入り口部分にできるがんです。子宮頸がんの原因のほとんどは、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染によるものです。日本人では婦人科領域のがんの中で、乳がんに次いで多く、年間約11,000人がかかり、そのうち約2,900人が亡くなっています。

ワクチン接種について

【定期接種】（無料）

◆対象

小学校6年生～高校1年生相当年齢の女性

◆接種期間

高校1年生相当年齢まで
（標準的な接種期間は中学1年生の間）

※高校1年生相当年齢の方の接種は令和7年3月31日までです。その後の接種はキャッチアップ接種の公費助成が終了となる予定のため自費となります。ご注意ください。

※定期接種、キャッチアップ接種ともに、子宮頸がん予防ワクチンの接種を3回完了していない方が対象です。
※早い年齢で接種するほど子宮頸がんの予防効果が高いとされています。

【キャッチアップ接種】（無料）

積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方についても、公平な接種機会を確保する観点から、改めて接種の機会を提供します。

◆対象

平成9年度～平成19年度生まれの女性

◆接種期間

令和7年3月31日まで

予診票の配付方法

接種の対象者で、上端3色の予診票を発行していない方には、4月上旬にワクチンの希望調査書をお送りします。届かない方は、健康管理課までお問い合わせください。

ワクチンを自費で接種した方

平成9年4月2日から平成17年4月1日生まれの女性の方で、高校2年生相当年齢から令和4年3月31日までに国内の医療機関でサーバリックス、ガーダシルを自費で接種した方は費用の助成があります。

詳しくは、健康管理課までお問い合わせください。

5種混合（百日せき・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ）ワクチンが定期予防接種化されます

4種混合ワクチンとヒブワクチンの定期予防接種は、個々のワクチンで接種していましたが、4月1日から5種混合ワクチンとして接種できます。

◆対象

生後2カ月～7歳6カ月未満のお子さんで4種混合ワクチンおよびヒブワクチンを1回も接種していない方（すでに1回以上接種している場合は、原則、接種したワクチンで完了してください）

◆接種回数・間隔

- ・初回接種3回（標準として20日～56日の間隔）
- ・追加接種1回（標準として初回接種終了後6カ月～1年半後）

◆接種を希望する方

対象の方で5種混合ワクチンの予診票をお持ちでない方は、母子健康手帳とお手元にある4種混合およびヒブ感染症予防接種予診票を持って、健康管理課までお越しください。

小児の肺炎球菌感染症のワクチンが15価に変わりました

4月1日から、定期予防接種である小児の肺炎球菌感染症の予防接種ワクチンが13価から15価に変わり、予防できる肺炎球菌の種類が増えました。

◆13価ワクチンで接種を開始した方へ

使用するワクチンは15価ワクチンが基本となるため、切り替えて接種が可能です。

お手元にある予診票（白地に上端ライン青色）はそのまま使用できます。

※接種間隔は13価ワクチンと同様です。

問合せ 健康管理課（2階） ☎(20)1574 📠(20)1600